

令和 4 年度 自ら学び 自ら考え 自ら行動する子を育てる



松林小だより

令和4年 9月 1日 第 6号

茅ヶ崎市立松林小学校 校長 平木 恵美



前期後半が始まりました！

暑さが厳しかった夏休みですが、充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか。夏休み中、学校はシーンとしていて、少し寂しい気持ちでしたが、夏休みが明け、子どもたちのにぎやかな声が戻ってきました。不思議なもので、日々顔を合わせていると、元気にあいさつを交わすことが当たり前のように感じてしまいますが、お休みが続きしばらく顔を合わせていないと、子どもたちのにぎやかな声が新鮮に感じ、いつもに増してうれしい気持ちが自然にわいてきました。

さて、夏休み前の朝会で、「勉強はなぜするの」という問いを子どもたちになげました。その後の話で、「勉強は、いろいろなことを学ぶ中で自分のよさを知り、知ることのできた良さや特性を生かして、将来人の役に立つために、今、学んでいるのだよ。夏休み、机に向かうだけではなく、いろいろな人、もの、ことと触れ合い、学んできてください。」といった話をしました。知識を学ぶことも大切ですが、いまや、AIが発達し、多くの知識は検索すれば知ることができます。大切なはその学んだ知識を、別の知識や経験と結びつけて、生きて働くものとするのだと考えます。そういった学びとなるよう、9月からの学校教育でも授業づくりや日々の活動を工夫し、子どもたちとともに良い学びができるように努めてまいります。

さて、夏休み明けの朝会では、「ちむどんどん」という言葉を紹介しました。ご存じの通り、朝の連続テレビ小説の題名にもなっている言葉です。「胸がわくわくする気持ち」という意味です。クラスにも慣れ、9月からは学習も充実期を迎えます。これからの時期、ぜひ、様々な学びや体験を通し、また日々の生活の中でも、ワクワクしたりドキドキしたりする気持ちを感じながら学びを深めていってほしいと思います。

保護者、地域の皆様には、早速、子どもたちを安全に送り出すとともに見守りをさせていただき、ありがとうございます。引き続き、学校教育にご理解、ご協力よろしくお願いたします。

夏休み明け、お子様の様子はいかがでしょうか？

夏休み明け、子どもたちは様々な感情を心に持ちながらスタートしていることと思います。そのすべてが前向きな気持ちとは言えません。宿題が終わっていない、友達と会うのが不安、学校に行くのが……。お子様の様子が普段と違うな、おかしい…など何かご不安なことがございましたら、遠慮なく学校までご相談ください。

松林小学校のステキ発見！（このコーナーは児童の皆さんも読んでくれたらうれしいです）

今回は松林小学校の校歌と校章について紹介します。

両方とも昭和26年（1951年）に、制定されました。校章については、最初は「松林」という字のみでしたがやがて大木になる松に子どもたちの成長を託して、「まつぼっくり」を図案化したそうです。

また、同年に校歌も制定されています。だいぶ昔に作られたものですが、校章や校歌には子どもの成長を願う気持ちや松林小学校を大切に思う気持ちがいっぱい詰まっています。松林小学校ですと大切に引き継がれてきました。これからも大切にしていきたいですね。



松林小学校校歌
古関 吉雄 作詞
岡本 敏明 作曲
一みどりの丘は夢つつみ
松ふく風は歌はこぶ
心のふるさと思いもゆたか
たたえよ松林小学校
(二番、三番につづく)